

長岡中央総合病院 倫理委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	Comprehensive Aphasia Test (CAT) 日本語版作成および信頼性と妥当性の検討
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
健常者、失語症者 2022. 11 月～2023. 10 月	
③概要	
<p>失語症者の言語症状を調べるための失語症検査として、わが国では、WAB 失語症検査、失語症鑑別診断検査、標準失語症検査 SLTA がある。その中で、日常臨床で広く用いられているのは、1974 年に作成された標準失語症検査 SLTA である。</p> <p>そのような中、2004 年にイギリスで、検査の所要時間約 1 時間という短時間で、失語症状を把握することができる検査 Comprehensive Aphasia Test が開発された。検査に用いられている刺激では、頻度や心像性などの心理言語学的属性がコントロールされている。その後、オランダやデンマーク、アラビア等で、その国の文化や言語特性にあわせて、改訂された同検査が出版され、さらに、スウェーデンやフランス等いくつかの国で、出版計画が進められている。</p> <p>わが国でも、同様の検査の開発を目指し、本研究では、日本の文化や言語特性にあわせた Comprehensive Aphasia Test (CAT) 日本語版の作成を行うことを目的とする。約 1 時間という短時間で実施可能で、訓練にも有効な手がかりを得ることができる検査であるため、失語症臨床に携わる ST (言語聴覚士) に役立つばかりでなく、失語症者の QOL (Quality of Life) 向上につながると考えられる。現在、Comprehensive Aphasia Test の出版元である Taylor & Francis に、千葉テストセンターを介して、著作権を取得済みである。Comprehensive Aphasia Test 日本語版の完成後には、千葉テストセンターから出版する予定である。</p>	
④申請番号	(倫理委員会申請時の受付番号。未採番の場合は空欄。)
⑤研究の目的・意義	日本の文化や言語特性にあわせた Comprehensive Aphasia Test 日本語版の作成を行うことを目的とする。1 時間という短時間で実施可能で、訓練にも有効な手がかりを得ることができる検査であるため、失語症臨床に携わる言語聴覚士に役立つ。
⑥研究期間	2022. 11 月～2023. 10 月
⑦情報の利用目的及び利用方法 (他の機関へ提供される場合はその方法を含む。)	上智大学外国語学研究科言語学専攻言語聴覚研究コース、言語聴覚研究センターより依頼でデータ収集に協力し、Comprehensive Aphasia Test (CAT) 日本語版の標準化に協力する。
⑧利用または提供する情報の項目	疾患名、性別、年齢、Comprehensive Aphasia Test (CAT) 日本語版検査結果
⑨利用の範囲	検査標準化のデータへの使用
⑩試料・情報の管理について責任を有する者・連絡先	長岡中央総合病院 リハビリテーション科 片桐啓之
⑪お問い合わせ先 (照会先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先)	長岡中央総合病院 リハビリテーション科 片桐啓之